

は じ め に

平素より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本年度も本校の教育・研究活動をまとめた『研究紀要 第62集』を刊行する運びとなりました。

本校ではこれまで35年以上にわたって、調査研究型「BIWAKO TIME」を中心に、探究的学習活動に焦点をあてた実践研究に力を注いできました。また、平成25年度からは、「論理的思考力」を高めるための思考ツールの活用にも取り組んでいます。今年度はさらに一步進めて、『探究的学習活動を通した、実社会に生きてはたらく力の育成』をメインテーマに、「総合学習を幹に、課題を主体的に見出す学習指導」をサブテーマとして、「課題設定」に焦点をあて、論理的・創造的に思考し、身に付けた知識や技術を実社会で活用できる力を育成することを目指した学習指導について提案いたしました。研究協議会の全体討議では、国際日本文化研究センターの山田奨治教授と本学データサイエンス学部の市川治教授をお招きして、Society5.0や『超スマート社会』で求められる生徒の資質・能力の育成や、AIならびにビッグデータを活用した学校教育の可能性について、パネルディスカッションを行いました。2018年11月に発表された「柴山・学びの革新プラン」では、①Society5.0の時代こそ、人と人との関わり合いの中で、人間としての強みを伸ばしながら、人生や社会を見据えて学び合う場となることが求められている。②すべての児童生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を育成するためには、新学習指導要領の着実な実施やチームとしての学校運営の推進が不可欠であり、その中核を担う教師を支え、その質を高めるツールとして先端技術には大きな可能性がある。③今後の我が国の教育の発展には、学校現場における先端技術の効果的な活用を実現するための技術の進展と、学校現場における先端技術の活用の促進が必要不可欠である。との提言がなされ、今後、教育再生実行会議にかけられ、議論される予定であるとうかがっております。

私たち学校教育に携わる者としては、学校や地域の実態に即して、「教師の視点」、「子どもの視点」、「保護者の視点」、「教育委員会の視点」、「大学等の研究機関の視点」から丁寧に検討していく必要があります。滋賀大学は日本で初となるデータサイエンス学部を有している大学であると同時に、滋賀県教育委員会との緊密な連携を推進しており、これらの資源を大いに活用していきたい所存です。

ここに本年度の本校の研究成果を広く公表して皆様からのご批評を仰ぎ、今後の教育活動に活かし、発展させていくことができるよう努めてまいりたいと考えております。どうぞ忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年（2020年）3月

滋賀大学教育学部附属中学校 校長 辻 延浩